



児玉 毅(こだま たけし)さん
1974年生まれ。札幌市出身。「スキーを背負って世界を旅する」をライフワークに、最高のライディングと感動を追い求めるプロスキーヤー。



プロスキーヤー児玉 毅さんに独占インタビュー！

北米最高峰デナリ山頂からのスキー滑降や世界最高峰エベレスト登頂など、世界が誇るマウンテンプロスキーヤーの児玉さん。昨年度『RIDE THE EARTH 08 HOKKAIDO POWDER BELT』という「地球を滑る旅」の第8巻が北海道を舞台に発刊されました。これまでの経歴も踏まえながら、世界中の雪山を滑ったからこそ見えてくるプロスキーヤー、児玉さんが感じる北海道の雪についてお伝えします。



スキーを始めたきっかけはどのようなことですか？

～スキーって楽しい・カッコいい～

父に誘われ、初めてスキーをしたのは4歳ごろです。その後、父の仕事仲間の方が「上手だね」と僕のスキーを誉めてくれたり、ふわふわな雪のところに連れていってくれたりしました。それをきっかけにスキーは面白いと思うようになりました。本格的にスキーを習ってみると楽しかったですし、自分よりも上手な人を見ると「負けたくない」と思いました。滑れば滑るほど、自由にいろいろなところへ行くことができ、見られなかった世界が見えるようになってスキーへの情熱も日々増していきました。

プロスキーヤーになることを決めたきっかけはどのようなことですか？

～1度限りの人生、とことんスキーを～

大学生の時に三浦雄一郎さんに出会い、スキーのアルバイトをしながら冒険としてのスキーの修行をしていました。三浦さんをはじめたくさんの方と出会いから「スキーの可能性」や「もっとスキーをやりたい」と強く思うようになりました。そこで、「大学卒業後は2年間、アメリカで自分の全てをスキーだけに費やしてみよう」「1度だけの人生なので、とことんやってみよう」と決心し、行動することに決めました。その2年間の

ために、親を説得したり、いろいろなアルバイトをしてお金をためたりと大変ではありました。

～アメリカで修行後もスキーへの思いは高まるばかり～

アメリカでは、当時の日本とは全く異なるスキースタイルが流行っていました。大きな山をダイナミックに滑ったり、ジャンプをしたりしながら滑るというような自由なスキースタイルでした。「この楽しみ方を日本に伝えたい」「自分にはスキーを通してやるべきことがある」と思い、アメリカ修行後は、会社などへの就職ではなく、勝手にプロスキーヤー宣言をしてしまいました。実際は、同じ志をもつ仲間と一緒にスキーの写真や記事を書いて関係する雑誌に掲載してもらったなどの仕事をしていました。そのうちに日本でもアメリカのようなスキースタイルが話題となりその第1人者としてスポンサーにもついていただけになりました。それが今につながっています。



アメリカでのスキー修行

スキーを楽しむという観点から札幌の雪質を教えてください

～「量」「質」「リセット率」が素晴らしい北海道の雪～

北海道には当たり前にある雪です。海外に行く前は、北海道よりもっとよい雪があると思っていました。しかし結果として北海道の雪は素晴らしいとあらためて感じるようになりました。ある程度スキーが上手になってくると、パウダースノーの中を滑ることはスキーヤーとしての「ごちそう」です。同じ70cmの降雪量でも、1日ドーンと降ってその後6日間は雪が降らないとなると、パウダースノーはあってもその期間は短いことになります。これは「リセット率」が低く、スキーヤーとしては楽しみが少なくなります。一方、毎日10cmぐらいいでもコンスタントに雪が降るとパウダースノーはよく現れることになります。このような地域がまさに北海道なのです。雪の量、質、そしてリセット率が高いと言えるでしょう。寒気や日本海、山々の位置関係などが偶然重なって生まれた北海道の雪は、まさに世界的に見て「奇跡」としか言いようがありません。

～世界中のスキーヤー憧れの場所、北海道～

僕らスキーヤーの間では、北海道は世界中のスキーヤー憧れの場所です。「北海道＝パウダースノー」と言われているほどです。世界の雪と言っても過言でないでしょう。その中で、札幌というのは、これだけ文化的な都市にもかかわらず、山がすぐ近くにあり、雪質も素晴らしい。本当に完璧な場所だと思います。ヨーロッパなどでスキーをすると、小さな村に行き、もちろん泊まりがけのスキーとなります。身近にスキー場があり、少し足を延ばすとふわふわのパウダースノーなんて、信じられない場所ですね。

現在、世界中の雪山に行き「地球を滑る旅」という活動を続けられていますが、そのような活動を始めた理由は何ですか？

～心に残る世界の雪山No.1はレバノンの雪山～

「世界中の雪山を滑ることをライフワークにしたい」という探究心や冒険心からくる熱い思いで始めました。「冒険」ではなく「旅」としたのは、本を見た人がその気になれば行けるような、そして自分に置き換えて見られるような本を目指して「旅」としました。これまでを振り返ると「地球を滑る旅」の最初に訪問したレバノンがとても印象に残っています。下の写真には、奥からビーチリゾートが続く地中海、その手前に300万人が生活する大都市ベイルート、そして手前にある雪山の3つが1つの写真に納まっています。スキーのイメージが全くないレバノンには400cmの雪がある雪山やそれを取り囲む素晴らしい景色がありました。エベレストに登ったとき以上に世界は広いなとつくづく思いました。当時、レバノンに関する情報がほとんどありませんでした。誰も知らない、誰も経験がしたことのないということが貴重で、そういった情報のないことを僕の経験を通してたくさんの方に伝えたいと思いました。



RIDE THE EARTH PHOTOBOOK vol.1 地球を滑る旅 "LEBANON"
＜著者：Rider Text 児玉毅 / Photo 佐藤圭＞



朝の会で使える小ネタ

なるほど!札幌の冬

File 01 プロスキーヤーのこだわり~道具編

バックカントリースキーヤーは、自分の滑りたい斜面のために、まずは雪山に登らないといけないことが多くあります。

そこで大事なのが雪山を「登る」道具です。

クライミングスキン



スキー板の滑走面に毛皮のようなシートを貼り付けます。毛並みの向きのおかげで前方には進むけど後方には引っかかるため、山を登ることができます。(昔はアザラシの毛皮が用いられていましたが今は人工の毛を使っています)

2つの用途に対応するビンディングとスキー靴



山を登る際は、スキーブーツのかかどが浮くように、ビンディングの形状を変えることができます。またスキー靴は、足首がより動きやすくなり、登ることがより楽になります。

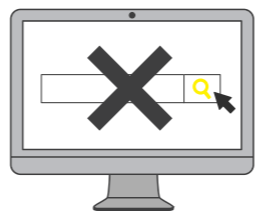


深い雪に埋まることなくスキーそのものが雪上を「登る」道具になります。あと5分、あと10分登ればパウダースノーが待っている...と思ながら1時間、2時間をひたすら登ります。(クロスカントリースキーのようで、楽しいですよ!)

File 02 プロスキーヤーのこだわり~世界中の雪山を滑るこだわり信条編

「やっぱり!」よりも「え?そうなの?」

世界中の雪山を滑るときは、「いつも、いかにワクワクするか...」を基準にしています。今の時代、多くの情報が簡単に得られるようになりました。しかし、旅先について先回りして調べる事、これはある意味旅の一番面白い部分を失ってしまっているとも言えます。「あえて、必要以上に調べない。景色や常識、文化の違いにビックリしたいし、ドキドキしたい」と思っています。答え合わせをするために旅に行くわけではなく、新しい発見をしたい、感動したいから旅に行くのです。調べないと困ることもありますが、「調べない大事さ」もあると思っています。



コミュニケーションは情熱と笑顔

世界の雪山を滑ってきましたが、旅をする国の多くは英語圏ではありませんでした。そこで思いを伝えるために大切なのはやはり「情熱」でした。言葉が話せなくても気持ちを表情にして伝えようとするのが大切。しかし、英語に助けられることが多いことも事実です。英語を話せる人がとても少ない国もありますが、英語を話せる人はどこの国にも必ずいます。そして「笑顔!」これほどこの国でも人として大切です。言語習得の第一歩は、人と話することへの抵抗感をまず、簡単なフレーズをまずは自分も使ってみることだと思います。使ってみて「(思いが)通じた!」という喜びが次につながりますよね。



※取材協力:石井スポーツ札幌店横 モデルハウスLodgePlus



さっぽろっ子スキーリサイクル



「さっぽろっ子スキーリサイクル」は、すぐにサイズが合わなくなってしまう子どもたちのスキー用具をリサイクルして、スキー学習などに有効活用し、保護者の方の負担を軽減することを目的とした取組です。2010年より始まり、これまでに約5000点のスキー用具がリサイクルされました。

●どうやって回収するの?

各区2校の小学校や、札幌スポーツ館、北海道日産の各店舗で、決まった日に回収します。
※今年度の回収は終了しています。



スキージャンプ 葛西 紀明選手のサイン入りステッカーが貼られたスキー板

●回収されたスキーはどうなるの?

安全に使えるように、点検や整備が行われます。日本スキー産業振興協会によるS-B-B認定整備技術者セミナーを受け、1年以上点検や整備の経験がある技術者が、安全性の確保、サイズ合わせを行います。

また、道新・UHB・AIR-G'の共同プロジェクト「未来s(みらいず)」との取組としてスキー用具を使用する子どもたちが楽しめるよう、配付する一部のスキー板に、オリンピックのサイン入りステッカーを貼っています。回収されたスキーが少しでも多く利用したい人に渡し、使っていただき、スキーに親しんでもらえるようにという思いが込められています。

スキーの配付を希望したい!

第1期募集~11月11日(金)15時よりウェブサイトにて応募受付が開始されます。希望のスキーが重複した場合は、抽選となります。希望のなかったスキーについては、第2期募集で応募することができます。詳しくは、「さっぽろっ子スキーリサイクル 2022」で検索してみてくださいね。

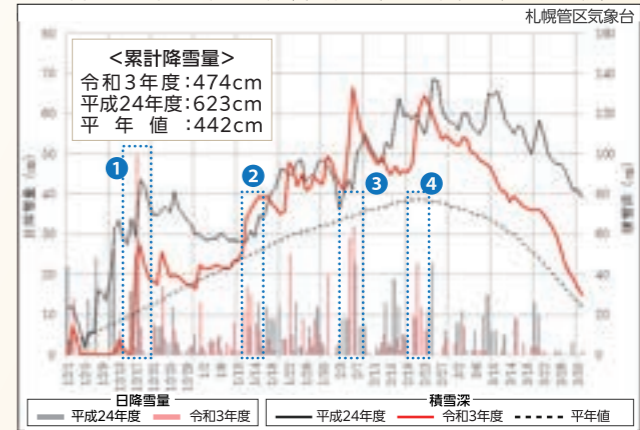
Q 令和3年度の冬の気象の特徴を教えてください?

A 令和3年度の冬はいわゆる「ドカ雪」の日が短期間に集中したなど例年にはない特異な気象となり、公共交通機関の運休や渋滞の発生など市民生活に大きな影響が及びました。

【令和3年度の冬の気象の特徴】

- 12月18日の24時間降雪量が平成11年の統計開始以降最多の55cmを記録
- 1月12~14日の3日間で湿った重たい雪が46cm降った。
- 2月6日の24時間降雪量が60cmを記録し、統計開始以降最多を更新
- 2月21日から3日間で地吹雪を伴う強風の中で44cmの降雪を記録
- シーズンを通しての累計降雪量は例年並み。一方、積雪深は過去10年で最も大雪だった平成24年度と同水準で推移し8年ぶりに1mを超えた。

【日降雪量と積雪深の推移(平成24年度と令和3年度の比較)】



このニュースレターや冬や雪に関する指導案等は札幌市役所HPから、ダウンロード可能です。

【ホームページ】<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/>

校務・教育系システムのポータルサイトからも閲覧可能!

【発行・お問合せ】札幌雪学習プロジェクト事務局(札幌市建設局雪対策室事業課) TEL:011-211-2662 FAX:011-218-5141

雪に関する写真や動画等、いろいろあります!

札幌雪学習

検索

雪学習HPはこちら

